

6月23日(水)18時半から、第2回目の「架け橋交流会」を開催しました。

参加者は施設側から3名、本実行委員会側から8名でした。

この日の議題は「授産品バザー」の件(1頁目に記載)と、これから実施する予定の「架け橋交流アンケート調査」およびその調査をまとめた「冊子製作」の件、そして次回の「架け橋交流会」の件でした。今回の交流会では参加された授産施設の方々から、施設運営の厳しい実状とボランティア受け入れに際しての様々な問題が詳しくお話しされ、今後の私たちの活動にとって大変有意義な交流会となりました。

以下は、私たちが今年の「きらきら助成事業」の一つとして予定している、ボランティアを送り出す側(ボランティア団体、学校、企業など)に対する「アンケート調査」と、その結果をとりまとめた「冊子」の製作に関する主な意見です。

1. ボランティア受け入れに際して、特に施設利用者(障害者のある方)と一緒にする作業については、いろいろと心配することが多い。
2. ボランティア受け入れについての基本姿勢は「歓迎」であるが、いつでもだれでも「歓迎」とは言えない実状がある。
  - ・ 障害に関する基礎知識のないボランティアや周囲の状況を配慮できないボランティアの場合、困ることが多い。
  - ・ 人権擁護、プライバシーの保護など、きちんと理解して行動していただきたい。
  - ・ ボランティアの目的とするところが分からないと、どんな仕事をしてもらうのか判断に困る。
  - ・ 施設のスタッフは施設利用者のことを第1に考えているので、ボランティアの方のことまで気を回す余裕がないことが多い。
3. 特に作業が忙しい時は、利用者の保護者など実状をご存じの方にお手伝いをお願いしている
4. 商品の販売、チラシの配布、お弁当の配達などのお手伝いは本当に助かるが、施設側からは頼みづらい。
5. 学生ボランティアは、学校の実習カリキュラムの一環として来られることがある。
6. 就労支援施設と生活訓練施設では、施設での活動目的が異なるので、ボランティアに対する要求も自ずから異なってくる。例えば余暇活動などは、就労支援施設ではあまり考えられない。
7. 施設の種類によって異なるボランティアへの要請事項を整理して、アンケート調査をする必要があるのではないか。
8. 授産品の種類によってもボランティア要請の内容はことなるので、きめ細かい設問が必要である。

7月15日(木)の第3回交流会では、これらの意見を踏まえて「アンケート調査」と「冊子構成」の素案を提案することになります。

### 第3回架け橋交流会の案内

期日；7月15日(木)18時30分から

会場；ドルフィン(折尾1-13-2)

議題； ボランティア団体などに対する「アンケート調査」の検討  
北九州市障害者福祉ボランティア協会の紹介と情報交換

連絡先：学園&地域交流ネットワーク 090-2710-6810(マキタ)

『障害者施設と地域の架け橋ガイドブック』は、ホームページから見られます。

<http://homepage3.nifty.com/wam/>